



内閣官房 内閣情報調査室

平成27年度採用者に、当室を志望した理由や官庁訪問の様子等について語ってもらいました。

1年目
職員より

日本に貢献する仕事

■ 内調を知ったきっかけ

私が小学生の頃、米国における同時多発テロ事件が勃発し、続いてアル・カーイダ及びタリバンに対する軍事活動、イラク戦争が開始されました。私は当時、「なぜ同じ人間なのにこうも争いをしてしまうのか」という疑問を持ちました。

大学では主に、国際関係や安全保障を学び、中でも戦争が起きてしまうきっかけともなり得るテロリズムについて関心が生まれていきました。そこで、日本の平和に貢献する仕事に就きたいと考えるようになり、内閣情報調査室という組織があることを知りました。

その後、官庁業務合同説明会で内調が国家公務員一般職から採用を行っていることを知り、本格的に志望先として考えるようになりました。

■ 最終的に内調を志望した理由

一つは内調の組織の性質です。内調は、官邸直属の情報機関として情報を官邸にあげるといふ非常に大きな役割を担っており、特に、「総理や官邸と近い立場で仕事ができる」という点に大きな魅力を感じました。また、情報コミュニティ省庁が収集、分析した情報を集約し、内閣の立場から分析、評価をしたり、内閣情報会議等の運営を担当するなど、情報コミュニティの要としての役割を担っているという点に非常に魅力を感じました。

もう一つの理由は勤務環境です。原則として地方勤務がないため、日本の行政・政治の中心地で長く働くことができ、非常にやりがいを感じます。また、結婚や育児などの将来設計を描く上でも魅力的な職場であると感じました。

■ 内調の業務を知るためにしたこと

主にパンフレットを参考にしました。内調のパンフレットは、組織の性質や業務の概要だけでなく、様々な部署で働く先輩職員のメッセージが数多く掲載されており、非常に参考になりました。パンフレットの内容を一字一句逃さず読むことで、業務内容ややりがいを具体的にイメージできました。

また、パンフレットを読む中で生まれた疑問は説明会で積極的に質問するようにはしました。説明会に参加することで、官庁訪問の前に内調への理解を深めることができました。

■ 試験対策、面接対策

大学2年の頭から独学で専門科目の勉強を少しずつやり始め、大学2年の2月に公務員試験予備校に通い始めました。

面接対策にも力を入れ、具体的には、民間企業の面接を受けたり、大学主催の面接対策合宿や予備校の模擬面接に参加するなどして面接練習を重ねました。

■ 後輩へのメッセージ

官庁訪問の際には、「どこの官庁をいつ訪問するか」が非常に重要となると思います。時間をかけてじっくり考え、自分が働きたいと思える職場を見つけてもらえればと思います。その際、「自分が今後約40年やりたい事はなにか」を、仕事とプライベートの両側面から自分と向き合ってよく考え、その過程で、私と同じように内調に興味を持ち、最終的に志望先として選択してもらえたら、こんなに嬉しいことはありません。

内調で皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。



人柄に惹かれて

■ 内調の説明会や官庁訪問で印象的だった職員、エピソード

最も印象に残ったのは、業務説明会でお会いした国内部門の方です。時折冗談を交えながら仕事の説明をしてくださる温かい人柄、そして説明会参加者に細やかな気配りをしてくださる様子がとても魅力的に映りました。

また、官庁訪問での職員の方々の対応も心に残っています。私が面接前に集合場所で待っていると、何人かの職員の方が、緊張をほぐしてくださるために話しかけてくださいました。とても緊張をしていた私にとって、職員の方々のこうした対応は大きな励みになりました。

■ 最終的に当室を志望した理由

一番の理由は、働いている職員の方々の人柄でした。

特に、内調の説明会や官庁訪問で対応してくださった職員の方々のアットホームな雰囲気や経験に基づいた興味深いお話に魅力を感じました。他の人に比べて直感的な理由とも言えるかも知れませんが、「自分が魅力的だと思える人と仕事ができる」という点は、内調を一生働く職場として選択するに当たり、最大の動機となりました。

■ 内調の業務を知るためにしたこと

私自身、大学生という立場で就職活動を行う中で痛感したことなのですが、普段の学生生活では、官庁や民間企業の正確な業務内容を知ることが出来る機会はなかなか得られません。しかし、採用パンフレットを読んで知識を蓄え、説明会で職員の方々の人柄を知ることによってその業務内容等に関する知識を正確に手に入れることができます。私もこの方法で業務内容や自らが働いている姿について具体的イメージを膨らませることができました。

働き出した今、自分の考えていたような世界が目の前に広がっています。



(内閣広報室提供)

■ 学生時代について

学生時代は、専攻分野の研究に最も力を注いだ一方で、大学時代にしかできないことを経験したいという思いもあったため、自分が興味を持ったことにはとりあえず挑戦する、ということを中心に心がけました。大学3年時の夏休みには、市議会議員の議員事務所でのインターンシップに参加しました。政治家の方との関わりは、文学少女であった私が政治に興味を持ち、内調を目指すきっかけともなりました。

■ 後輩へのメッセージ

今このメッセージを読んでいるということは、皆さんは少なからず内閣情報調査室という職場に興味を抱いていたり、就職先の一つとして考えていたりするのだらうと思います。私も、一年前まで皆さんと同じ立場で数ある就職先の中から志望先をどこにするのか考えに考えを重ねていました。

私が最終的に内調を選んだ一番の決め手は、やはり働いている方々の人柄です。こういった職場で、どのような人と一緒に働きたいか。個人の直感や主観によって一人一人違う答えがあると思います。是非、多くの説明会に参加して、「ここで働きたい」と思える、自分の肌に合う仕事を見つけてほしいと思います。その結果、これから皆さんと一緒に働くことができれば嬉しいです。

“情報のプロ”を目指して

■ 当室を最終的に志望した理由

官庁訪問を通じ、内閣情報調査室は、“情報のプロ”として、自分の専門分野だけでなく、社会の様々な出来事にアンテナを張り続けている方々が集まっている職場だと感じたからです。私もこの方々のようになりたい、ここで一緒に働きたいと考え、内閣情報調査室を志望しました。

■ 公務員試験、面接対策

公務員試験の勉強をする合間に、自分自身の可能性を広げるため、NPO、大学法人、民間企業等の就職説明会に参加したり、会社に所属せずフリーで活動する方にお会いしたりしていました。様々な世界に触れて刺激を受けることによって、自分自身が目指す将来像を見つめ直すとともに、また、それを常に更新することができました。また、こうした経験が、実際に官庁訪問をするときや進路に悩んだときなど、大きな決断する際に、自分自身の背中を押してくれました。

■ 官庁訪問で印象に残ったエピソード

一番印象に残っているのは、最近の関心事項について聞かれた際、お互いの見解について活発に議論することができたことです。大学のゼミナールにも似た雰囲気、あっという間に面談の時間が過ぎ、面接を受けていることを忘れてしまうほどでした。

日頃から、様々な話題について多角的な観点から自由に議論をすることができる職場というのは大変魅力的だと感じたことを覚えています。

また、何人かの職員に「あなたの夢は何ですか」という質問を受けたことも印象に残っています。国家公務員になる、内閣情報調査室に入室する、ということがゴールなのではなく、先のビジョンを見据え切磋琢磨することが大切なのだと思いを新たにしました。

■ 当室で携わりたい業務

何らかの形で研究に関する業務に携わりたいと考えています。日本の大学や研究所などの機関では多くの研究が進められていますが、それでも、どうしても目に触れにくくなっている問題や、重要視されていない問題が数多くあります。そうした問題を、少しでも多く日本全体の課題として取り上げることによって、社会に貢献したいです。

また、海外赴任も希望しています。実際に海外に出て、身をもって体験することが海外事情について知る上で最善の策であり、海外赴任を通じて、日本や他国について、より多角的な観点から考察できるようになると思うからです。私と同じ女性の中にも、海外での業務に携わっている方がいらっしゃるので、後に関続きたいです。

■ 後輩へのメッセージ

私は、面接の際、「面接官は私自身のことを全く知らない。自分自身が伝えたいと思うことが相手の面接官に100%全て伝わるとは限らない。逆も然り。」ということのを常に意識して話をするように努めました。

当たり前のことだと思うかもしれませんが、意外と「就職活動」という単語に振り回され、「分かってほしい!」「私のこの気持ちを伝えたい!」「御社のことはなんでも知っています!」とまっしぐらになり、忘れがちになることでもあると思います。

内閣情報調査室に入室したいという熱意はもちろんのこと、分からないことは分からないと伝える素直さや、自分の考えを相手にうまく伝える粘り強さを持って面接に臨まれたら良いのではないのでしょうか。

唯一無二の職場

■ 当室を最終的に志望した理由

私が最終的に内閣情報調査室を志望した理由は3つあります。

1点目は、業務の独自性です。唯一無二であることが私には魅力的に映りました。

2点目は総理官邸との距離の近さです。内閣情報調査室は内閣官房に置かれる組織であるため、官邸との距離が近く、政治のダイナミズムを体感しながら業務に携わることができ、業務のやりがいや、存在意義を感じやすい職場だと考えたからです。

3点目は、職員1人1人が担う責任の大きさです。内閣情報調査室は、組織の規模こそそれほど大きくありませんが、非常に重要な業務を担っており、職員一人一人の価値が試されます。内閣情報調査室は、常に向上心と責任感を持って仕事に向き合える場だと考えました。

しかし、本音を言えば、最後は直感です。何かを選択する時には、少なからず直感的決断力が作用していると思います。

■ 内調の説明会や官庁訪問で印象的だった職員、エピソード

一次試験合格発表直後に行われる合同説明会でお話を伺った女性の職員の方が印象的でした。受験生の緊張を解きほぐすためユーモアを交えながら、しかしその一方で、私が知りたかった内閣情報調査室の魅力や仕事上のやりがいについてお話をされていました。これは、相手の立場や状況が理解できていなければ、不可能なことだと思います。受験生の気持ちを斟酌し、寄り添うという“知性的”な振る舞いに感動させられました。

■ 学生時代に力を入れたこと

自分とは異なる関心や考え方を持っている友人と多く議論することです。それは、大学のゼミなど畏まった場での議論である必要は無く、先生・友人との酒場での会話で充分です。議論を通じて、新たな自分を発見することもあるでしょう。また、自分の立ち位置を知り、己の信念や関心が揺らぐこともあるでしょう。しかし、そういった他人を通じた自分自身との深い対話こそが重要だと思います。一般的に言って、多様な人との付き合いはその人間を豊かにします。自分と異質な人々を切り捨てるのではなく大切にし、彼らがたとえ自分と異なる価値観・立場にあるとしても、そのような人々との交流は、その人間に奥行きを与えます。

様々な本を読み、様々な映画を見て、異性も含めて様々な人と交流し、“出会い損ね”が無いような学生生活にしたいと私は考えていました。

■ 将来的に携わりたい業務

将来的には国内部門を希望しておりますが、様々な業務を経験する中で適性を見定めたいと考えております。

■ 後輩へのメッセージ

公務員試験といえば筆記試験対策に力点が置かれがちで、事実、筆記試験をパスしなければ次のステージに立てないのですが、筆記試験対策を行いつつも人物試験のことを頭の片隅に置いて日々を過ごして下さい。なぜなら、人間の魅力は一朝一夕に出来上がるものではないからです。数少ない面接の機会の中で、自分自身の全てを示し、相手に理解してもらうことは非常に難しいことだと思いますが、それを乗り越えて、後輩の皆様方の人間的魅力が少しでも伝わることを切に祈っております。その先に、当室への採用という道が待っていると思います。頑張ってください。

インテリジェンス・コミュニティの「要」で

■ 当室を最終的に志望した理由

我が国の安全保障環境が一層厳しさを増す中で、インテリジェンス・コミュニティの「要」である内閣情報調査室で働くことに魅力を感じたからです。

また、当室の特徴として、唯一の官邸直属の情報機関であり、かつ、少数精鋭な組織であることが挙げられます。そのため、職員一人一人の貢献度が他省庁に比べ大きいことも魅力に感じました。

■ 内調の説明会や官庁訪問で印象的だった職員、エピソード

官庁訪問の際に面接をしていただいた男性職員の方が印象に残っています。その方は、時折、冗談を交えながら内調の業務の重要性・やりがいについて丁寧に説明してくださいました。それまで、情報機関の職員は何か特別で遠い存在のようなイメージがりましたが、親しみやすい職員の方と話すことで内調が身近な存在に感じた瞬間でした。

■ 学生時代に力を入れたこと

私が学生時代に力を入れて取り組んだことは、大学院留学時の修士論文の執筆です。多文化共生社会をテーマにイギリスのアフリカ系移民の方々にインタビュー調査を行いました。言語・慣習の異なる地での調査は多くの困難がありましたが、根気強く傾聴の姿勢で接することで徐々に信頼関係を築き、実りの多い調査を行うことができました。

この経験から、常に知的好奇心を持ち続け、行動することの重要性を学びました。

■ 将来的に携わりたい業務

将来的には、自身の語学力や国際感覚を活かし、国際部門での情報収集・分析業務に携わりたいと考えております。

また、機会があれば、在外公館でも勤務してみたいと思います。

■ 後輩へのメッセージ

今後、ますますプレゼンスの高まる内調で皆様と一緒に働けることを楽しみにしております。